■ドイツ：配電会社 2 社、1 月から系統利用料金を約 10%値下げ

2017 年 10 月 16 日の業界紙によると、北西部の配電会社 EWE Netz と首都圏の配電会社 Stromnetz Berlin が 2018 年 1 月から系統利用料金を値下げする。EWE Netz は上位系統である送電会社 Tennet が来年の送電料金を 9%値上げすると発表しているにもかかわらず、系統料金を平均で 9%引き下げる。値下げの理由は、系統料金構造近代化法（NEMoG）によって分散型電源に支払われている「回避された系統利用費用（ｖNNE)」が来年から減額されるため、としている。この結果、年間電力消費量 3,500kWh の家庭の場合、年間で 27.55 ユーロの電気代の節約となる。EWE Netz はニーダーザクセン州で、中圧（20kV）配電線 2 万 600km、低圧（230V、400V）配電線 6 万 1,200km を運用する国内屈指の配電会社である。一方、ベルリン市の配電会社 Stromnetz Berlin も来年から系統利用料金の引き下げを予定している。年間平均電力消費量である 1,800kWh（ベルリンでは独身者が多いため）で計算した場合、電気代は 18 ユーロ節約されることになり、これは 10%の値下げに相当するとされる。値下げの理由としては、NEMoG による影響の他に、上位系統の送電会社 50Hertz が送電料金を来年から 11%値下げすることが挙げられている。50Hertz は、再エネ電力を原因とする系統混雑が新たに運開した送電線によって大きく改善され、再給電費用が大幅に減ったことで料金の値下げが可能となったとしている。